

実習系（被服学）の情報リテラシー教育授業モデル案

大妻女子大学 家政学部 阿部栄子

【テーマ】 繊維製品品質管理士 (TES) としての繊維製品の消費者苦情防止

【授業概要】

繊維製品品質管理士 (TES; Textiles Evaluation Specialist) は、繊維製品の消費者苦情の発生を未然に防止することを目的として設けられた資格である。この資格取得を目指している学生は、繊維製品に施される多様な加工、縫製、取り扱いの上で生じる問題点の対応について、情報通信技術の活用を通して最新のデータをトータルに収集する必要がある。

そこで、関連業界メーカー、商社、卸・小売業、検査機関、クリーニング業、消費者センター等から情報通信技術の活用を通して繊維製品における最新の動向データを収集する。身近な繊維製品・アパレル製品の品質苦情発生事例とその処理の方法について、具体的な事例を情報通信技術の有効活用を経て収集することにより、理解を深め、適切な問題点の対応が可能となる。

学修活動は、数名で 5～8 名のグループを構成して実施する。なお、対象年次は資格取得のための学外施設実習を実施する 3 年生、授業回数は 90 分授業 3 回分を想定している。

【授業の到達目標】

- ・ 問題解決のために繊維業界や化学の知識等を必要とする課題に対して、問題発見・解決の枠組みに基づき具体的な解決方針を決定し、立案した対応を遂行することができる (目標 A 2)。
- ・ 調査内容に適した情報源を複数選択し、それらを比較・検討することによって情報の信頼性や正確性を判断することができる (目標 B 1)。
- ・ 簡単な自作プログラム等を利用し、専門知識も活用しながら問題解決事例を検証することができる (目標 C 2)。
- ・ 様々な事例が想定される問題解決に対して、グループ活動を通じて取り組み、合理的な問題解決に向けて取り組むことができる (目標 A 3)。

【学修活動達成目標】の詳細と対応する到達目標

	授業内容・学修活動	到達目標
1	<p>繊維製品の取り扱いの上で生じる問題点について最新のデータを収集する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 問題発見・解決の枠組みに基づいて、具体的な調査内容・調査方法を決定する (調査内容としては、「関連業界メーカー、商社、卸・小売業、検査機関、クリーニング業、消費者センター等からの最新のデータを収集」「繊維製品に施される多様な加工、縫製、取り扱いの上で生じる問題点の理解」「品質苦情の原因究明と再発防止」等が考えられる)。苦情事例調査結果の整理・体系化、消費者苦情の原因究明と再発防止策の提案等の協働作業を効率的に行うため、情報通信技術を適宜活用する。 - 信頼性・的確性、専門性に優れたデータベースの存在を認識し、それらの基本的な使用方法を理解するとともに、異なる情報源から得られたデータの照合によって調査結果の妥当性を保証できる。 	<p>A2</p> <p>B1</p>
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 策定された原因究明・再発防止策のための統計資料に目を通し、使用者を限定することなく概略が把握できる。 <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 専門データベースの活用法、文献管理の手法等に関する解説 	

	<ul style="list-style-type: none"> - グループ編成の決定 - グループごとに調査内容，調査方法，調査対象等を議論して作業開始 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 授業で行った調査を継続する 	
2	<p>繊維製品の品質苦情 —消費苦情の原因究明・再発防止策—</p> <ul style="list-style-type: none"> - 調査データに基づき，画像ソフトなど（学生の理解度や専門性に応じて自作プログラムも可）を活用して事例シミュレーションを実施する。多様な事例が収集出来ることから，グループごとに対象を定めて対応予測を実施する。 - 多様な事例シミュレーションについて，プレゼンテーション技術を身につけるとともに，統計的なグルーピング手法や専門知識を活用した再発防止策の考察（例えば，事前対策）も可能になる。 	C2
	<p>【事前学修】</p> <p>繊維製品に施される多様な加工、縫製、取り扱いの上で生じる問題点の対応について、情報通信技術の活用を通して最新のデータを収集し理解する。</p> <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 苦情処理の分類と予想される再発防止対策の提案 - 事前に調べた苦情原因の究明と再発防止の妥当性の確認 - 苦情発生予測と再発防止に関するシミュレーションを実施 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 授業で行ったシミュレーション結果を整理する。 	
3	<p>品質苦情ごとの原因究明と、防止対策を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - グループごとに，苦情の原因究明と再発防止対策の検討結果をプレゼンテーションする。発表内容に関する議論を通じて検討結果を整理し，どのような再発防止策が考えられるか理由を付して提案する。 	A3
	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> - プレゼンテーションソフトを用いて，発表資料を作成する。 <p>【授業の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> - グループごとに，品質苦情のグルーピング化 - 質疑応答 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 発表と討論の結果を踏まえて，問題点ごとに品質苦情の原因究明・再発防止策を明確にプレゼンテーションする。 	

【評価】

本科目は、①小テスト・事前課題 30 点、②期末テスト 60 点、③課題調査・プレゼンテーション 10 点の内訳で採点。合計 60 点以上を合格とする。

上記 3 回分の課題に関する成果は、③の 10 点分として評価する。

③の採点は、ルーブリックに基づいて行い、問題発見力、課題解決力・情報活用力・チームワーク力を中心に評価する。